

第4章

地域団体・住民向けガイド

地域おこし協力隊は、「地域の未来づくりを、地域とともに進める人材」です。

市外から移住し、地域に深く関わりながら活動する協力隊にとって、地域の皆さまの理解と協力は欠かせません。

本章では、地域団体・住民の皆さまにご協力いただきたいポイント、お願いできること・できないこと、関わり方のコツなどをわかりやすく整理しています。

地域に迎え入れる立場として、お互いが気持ちよく活動できる環境づくりにご協力をお願いします。

1 地域おこし協力隊(観光分野)とは

地域おこし協力隊は、都市部から岩出市に移住し、地域の活性化に取り組む“新しい担い手”です。

観光・商工・文化・子育てなど、地域のさまざまな課題や魅力に向き合い、行政や市民と協働しながら活動します。

岩出市では特に、
地域の魅力を発掘し、発信すること
地域住民・事業者との連携を深めること
駅前活性化や観光案内所を拠点とした交流機会をつくること
などを期待しています。

協力隊は「よそ者」ではなく、地域の新しい仲間です。
温かく見守り、育て、共に地域の未来をつくる存在として迎えていただければ幸いです。

2 協力隊(観光分野)にお願いできること・お願いできないこと

協力隊は、行政の職員として任期中に活動しますが、何でもできる万能人材ではありません。

地域の皆さまに正しく理解していただくため、「お願いできること」と「お願いできないこと」を明確にお伝えします。

2 協力隊(観光分野)にお願いできること・お願いできないこと

(1)お願いできること

地域の活性化・観光振興・情報発信など、市のミッションに関連することは協力をお願いできます。

地域の魅力の掘り起こし(歴史・文化・店舗・人など)

SNS・広報媒体を活用した情報発信

地域行事・イベントの企画相談

地域の課題整理やアイデア出し

駅前観光案内所での来館者対応

店舗や団体の紹介記事・写真撮影

地域間連携のサポート

協力隊は新しい視点を持ち込むことが期待されていますので、ぜひアイデア段階から声をかけてください。

2 協力隊(観光分野)にお願いできること・お願いできないこと

(2) お願いできないこと(ご遠慮いただきたいこと)

協力隊は「地域の何でも屋さん」ではありません。

本来のミッションとかけ離れた依頼や、負担の大きい内容は受けることができません。

私的な用事や個人宅での作業

過度な無償ボランティア

会場設営など大量の人手を要する作業の丸投げ

長時間拘束する依頼

ミッションと無関係な雑務

個人的な飲み会の強制

プライベートへの過度な干渉

協力隊自身が断りづらい場合、行政(産業振興課)が代わって調整します。

「断りにくい空気」を地域側でつukらないことも重要です。 ⁷⁰

3 関わり方のポイント(協力隊と地域がうまくいくコツ)

協力隊の活動が地域に根づくためには、地域の皆さまの“かかわり方”が大きく影響します。

ここでは、良い関係を築くためのポイントを示します。

(1)最初の3か月は「紹介期間」と考える

協力隊は着任してすぐに地域の状況を理解できるわけではありません。最初の3か月は、

地域の情報や歴史の紹介

団体・事業者・キーマンの紹介

行事や会議の案内

などを通じて、地域の理解を深める期間です。

最初から高い成果を求めず、知る時間を確保してあげることが重要です。

3 関わり方のポイント(協力隊と地域がうまくいくコツ)

(2) 役割を明確に伝える

「何を期待しているか」を丁寧に伝えていただくと、協力隊は活動しやすくなります。

良い例

「駅前をもっと活性化したいので、写真の撮り方を教えてほしい」

「地域の歴史をまとめたいので一緒に考えてほしい」

悪い例

「最近若い人が来たから何とかしてくれ」

「とりあえず何でもやって」

3 関わり方のポイント(協力隊と地域がうまくいくコツ)

(3) 否定よりも“応援と提案”

協力隊は市外出身者が多く、地域に馴染むまで時間がかかります。新しい提案があっても、すぐに否定せず、

「やってみましょう」

「この部分をこうしたらもっと良いよ」

といった前向きな言葉かけが、活動の定着に非常に効果的です。

(4) 地域側も「相談できる窓口」を明確にする

協力隊に直接伝えにくいことがあれば、遠慮なく市役所に相談してください。

行政が間に入ることで、協力隊が活動に集中でき、地域の負担も減ります。

4 トラブルを避けるための心得

協力隊と地域の関係は近いいため、小さな誤解が大きな問題に発展することもあります。

トラブルを避けるための共通ルールを示します。

(1) コミュニケーションは丁寧に・一方的にしない

過度な期待や誤解を防ぐため、依頼やお願いはできるだけ

目的

期限

必要な作業量

を明確に伝えてください。

4 トラブルを避けるための心得

(2) プライベートを尊重する

地域に溶け込んでほしい気持ちは大切ですが、過度な干渉は逆効果です。

夜遅い連絡

個人情報詮索

何度も自宅を訪ねる

などは避けてください。

4 トラブルを避けるための心得

(3) 偏った意見を押しつけない

地域には多様な意見があるため、一部の意見だけで動くと協力隊が板挟みになります。

地域側で意見を整理した上で協力隊に伝えることで、活動がスムーズになります。

4 トラブルを避けるための心得

(4)問題が起きたら、まず行政へ連絡

誤解

無理な依頼

人間関係の不調

SNSトラブル

などが発生した場合、協力隊本人に直接指摘するよりも、行政(産業振興課)へご相談ください。

担当課が中立の立場から調整し、双方が納得できるように対応します。

5 地域と協力隊がともにつくる未来

協力隊制度の目的は、単に人手不足を補うことではありません。

地域の魅力を再発見し、新しい価値を生む“地域の未来づくり”そのものです。

協力隊は地域に新しい視点をもたらします
地域は協力隊の活動の場をつくります
行政はその橋渡しをします

この三者が協働することで、地域の変化は加速します。

協力隊が活動しやすい地域は、市民誰もが挑戦しやすい地域です。ぜひ岩出市の未来を協力隊とともにつくっていきましょう。